

滑稽という言葉も近頃あまり聞かなくなりました。
本家中国でも「滑稽」ではなく「幽默」がよく使われている
ようですね。
つまりユーモアのあて字。
滑稽のむかしに立ち戻って温故知新の風流を楽しむのも
けっこうなことだと思います。

小生の好きなオモシロ句をいくつかあげてみました。
いちばん敬愛する蕪村から

公達に狐化けたり宵の春

さくら狩美人の腹や滅却す

あま酒の地獄も近し浅間山

戀さまざま願の糸も白さより

意味よくわからないこともありますが無となくおかしく感
ずるところあり。次は草丈。

うかうかと来ては花見の留守居哉

飼猿も秋はことさら山の声

死だとも留守ともしれず庵の花

一茶は滑稽句が多くてえらびきれませんが

寝て起て大あくびして猫の恋

蠅一つ打てばなむあみだ仏哉

女郎花なんの因果で枯かねる

花の世を無冠の狐鳴きにけり

何といっても好きなのは山頭火です。

すべってころんで山がひっそり

捨てきれない荷物のおもさまへうしろ

すっぱだかへとんぼのとまらうとするか

ちんぽぽもおそろも湧いてあふれる湯

よい道がよい建物へ焼場です

みごもってよろめいてこほろぎかよ

俳聖という偉い人がおられますが、小生にはどうも聖より
俗の方に気が散ってしまいますので
ぜったいによろしい句はできそうにありません。
入門のごあいさつを兼ねて書きました。

幽霊の出そうな柳芽吹たり